

日本畜産物輸出促進協議会が台湾の展示会で和牛をPR

日本畜産物輸出促進協議会はこのほど、台湾の台北市世界貿易センター1号館で開催された2018年第4回「Touch The Japan 観光文化展」に出展した。同協議会では海外において畜産物を紹介する試食会やレストランなどの畜産物フェアなどを開催することを通じて需要フロンティア開拓を図ってきたが、今回のフェアは海外で行う初めてのBtoCで消費者を対象にしたイベントとなった。台湾への和牛輸出実績は、昨年9月の解禁からつねに高水準を維持。台湾からの日本へのインバウンドは400万人を超えており、和牛の輸出货量とインバウンド需要を合わせると、最重要輸出対象地域となっている。

第6回「台湾国際旅遊展」と同時開催で行われた「Touch The Japan」は「あなたの触れたい日本がきつと見つかる」をテーマに日本文化や食文化を通して日本をアピールする展示会であり、日本の各都道府県の特産物や各地の食文化の紹介が多くの観客の目を引いていた。期間中の4日間で入場者総数は27万人を超える一大イベントとなり、多くの報道関

係者の注目を集めた。

イベントでは2小間(18㎡)のブース(右写真)を中心に和牛肉の説明と試食が行われ、300席あるメインステージでの和牛の特徴説明、カットイングと調理実演が行われた。使用部位はロースとモモが用意され、ロースからはステーキ、炙り寿司、串焼き、モモからはステーキ、あぶりずし、カルパッチョ、あぶりユツケが調理実演された。メインステージでのプロモーションはつねに満席であり、立見を入れると毎回500人を集める大人気のイベントとなった。さらに主催者の国際観光文化推進機構から多くの聴衆を集めたことと、和牛肉への羨望(せんぼう)の眼差しを集めたことでベストステージパフォーマンス賞を授与された。

メインステージに登壇したミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役(左写真)は「台湾での親日ぶりもさることながら、和牛に対する人気の高さは他の地域以上の熱気を感じ、さらなる需要創出を期待する」と述べた。

岐阜県岐阜市の豚コレラ発生農場の防疫措置が完了

岐阜県は11日、同県岐阜市の豚コレラ発生農場の防疫措置が完了したと発表した。今後の予定は、防疫措置完了後17日が経過し、移動制限区域(発生農場の半径3km圏内の区域)および搬出制限区域(発生農場の半径3〜10km圏内の区域)で新たな発生が認められなければ、岐阜県は搬出制限を解除する。

